

平成 30 年 10 月 1 日

学校法人 西鉄学園  
西鉄自動車整備専門学校  
校長 椎葉 小夜子

「自己評価及び学校関係者評価結果（平成 29 年度版）」 報告

学校法人西鉄学園 西鉄自動車整備専門学校では、平成 29 年度の自己点検・自己評価を実施し、本校規程に基づき学校関係者評価委員会を開催いたしましたので、ここに学校教育法施行規則第 189 条に則して「自己評価及び学校関係者評価結果（平成 29 年度版）」を公表いたします。

学校関係者評価委員会からのご意見を真摯に受け止め、教育力の更なる向上、より良い学校運営を目指し、教職員一同努力して参ります。

今後とも、一層のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

■学校関係者評価委員

	氏 名	所属 ・ 役職
企業・団体	自動車業界	奥 和昭 トヨタカローラ福岡株式会社 総務部 人事グループ グループ長
		西村 努 トヨタカローラ福岡株式会社 営業支援部 総合営業企画グループ グループ長
	業界団体	村川 英司 一般社団法人福岡県自動車整備振興会 指導部 部長
	教育有識者	井上 武之 前篠栗町教育委員長
	卒業生	木下 泰秀 九州日野自動車株式会社 福岡支店 総務課 課長
	事務局 (学内)	椎葉 小夜子 理事 校長
矢ヶ部 友則 教 頭		
目原 宏輝 教務・就職課 課長		
阿納 弘通 総務・学生課 係長		
浅井 朋晃 教務・就職課 主任		

西鉄自動車整備専門学校 自己評価及び学校関係者評価結果（平成29年度版）

平成30年10月1日公開

評価項目	自己評価	学校関係者評価
<p>(1) 教育理念・目標</p> <p>○理念等の達成に向け特色ある教育活動への取組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>企業関係者や卒業生との交流機会を設け、業界のニーズをつかみ人間力の育成に取り組んでいる。</li> <li>企業へのアンケート調査を実施し実態把握を行った。その結果を検討し教育内容改善にどのように繋げるかが課題。企業訪問を実施し、アンケート調査で指摘があった内容を具体的に聴取し、教育内容の改善に反映する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>最近の傾向として、マニュアル以外の事象に対して対応できない若者が増えているので、応用力を高める教育を行ってほしい。「どうしてそのような結果になるのか」を考えるプロセスに重点をおいた教育も必要である。</li> </ul>
<p>(2) 学校運営</p> <p>○理念等を達成するための事業計画</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>中期経営計画に沿って、各年度の事業計画を明確に策定している。</li> <li>平成29年度事業計画に基づき、数値目標を念頭に置いて計画を策定し、常にその執行状況の把握と進捗の共有化を図った。数値目標達成率は71.4%。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>整備士資格以外の資格（準中型自動車運転免許等）を推奨することを望む。</li> </ul>
<p>(3) 教育活動</p> <p>○教育目的・目標に沿った教育課程</p> <p>○教育課程について、外部の意見を反映</p> <p>○キャリア教育の実施</p> <p>○教員の組織体制</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>シラバスを作成しているものの、学生が授業目標に到達しているか、教育内容が学生のレベルに沿ったものであるか等、点検が不十分。チェック機能を高めるために、定例の教職員会議で教育内容の点検を行うなど、教育の改善を図る。</li> <li>外部の意見をカリキュラムに反映させ、教育の質向上に努めている。</li> <li>キャリア教育の効果について、就職先企業アンケート調査及び教職員による企業訪問により卒業生や企業担当者から意見聴取を行い状況の把握をした。この結果を授業に反映させ指導・教育を強化していく。特に社会人マナーやコミュニケーション能力向上を重点的に取り組んでいく。</li> <li>校務分掌を策定し、業務分担・責任体制を明確に定めている。校務遂行にあたっては、担当業務・科目に関係なく協力し合う体制をとっている。</li> <li>授業内容・教育方法の改善について、更なる組織的な取組みが課題。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>近年は色々な仕事で「親切、丁寧、心を添えて」が足りないと感じる。近江商人の「三方よし」という言葉があるが、これには信頼関係が構築されている。「権利、義務、個」をあまりに主張する時代になっているので、「秩序、共存、義務」に立ち返り、学校のあり方を見直すことが重要。</li> <li>社会人基礎教育の強化が必要。授業改善の一環として、現場の実情に沿った教育の観点から、教育時間を確保して取り組んでほしい。</li> <li>IT技術の発展により、現代は「人間の存在」が問われている時代。仕事は人生の基盤であり、根源でもある。働くことに高い志を持ち、「働くことは生きることである。」ということを学生に、しっかり教えてほしい。</li> </ul>
<p>(4) 学修成果</p> <p>○資格・免許の取得率向上への取組み</p> <p>○卒業生の社会的評価の把握</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>国家試験対策は、学生の習得レベル別に応じたクラス編成を行い指導している。合格レベルに達するのが困難な学生の対策として、学生の得意・不得意部分を早期に把握し、計画的により一層きめ細やかな指導を行う必要がある。</li> <li>卒業生の就職先企業に対してアンケート調査を実施し現状把握を行ったが、「卒業後の支援が不十分である」との回答があった。今後、卒業生の就職先での悩み等を聞きアドバイスできる体制の構築が早急に必要である。教職員が配属先を訪問し卒業生から話を聞いてフォローアップする、学校のホームページ内に卒業生専用相談窓口を設置するなどを進めている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>国家試験に全員を合格させることが学校の責務。教育改善を図り、全員を合格させてほしい。</li> <li>卒業生の支援については、企業が教育していくことで十分と考えるが、学校が行う卒業後の支援として、仕事の悩み等を学校が早期にキャッチし、企業と連携して対応する体制を強化することは重要。</li> </ul>
<p>(5) 学生支援</p> <p>○留学生に対する相談体制</p> <p>○学生の健康管理体制</p> <p>○課外活動に対する支援体制</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>現在、外国人留学生は少数であり、その対応は担当が主体となって行っている。</li> <li>外国人留学生の受入体制の構築を図っているところであり、留学生が不安のない学生生活を送れるよう、ガイドブックの作成等、準備を進めている。</li> <li>総合病院の医師を学校かかりつけの医師として学生に紹介し、問題発生時には迅速に対応している。</li> <li>学生の心の病には、教職員がカウンセリングに関する研修を受講することや、専門家の協力を受けることで問題解決に取り組んでいる。</li> <li>クラブ活動規程を設置し、費用面の支援も行っている。地域や団体との交流試合や福岡県の専門学校体育大会に参加した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>外国人留学生が目標とする日本企業に就職した実績を評価する。更なる取組み向上を期待する。</li> <li>職場において、人間関係が原因で心の病を発症する社員もいる。ストレス耐性をつける教育、指導も必要。</li> <li>体育系の部活動を推奨・維持しつつも、自動車関連の部活動等、課外活動に学生が興味を持って取り組める内容の検討も必要。</li> </ul>
<p>(6) 教育環境</p> <p>○インターンシップ等の実施体制</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>インターンシップの実施企業が前年よりも拡大した。</li> <li>企業側担当者との連携を密にし、学生に配慮したプログラムを作成する必要がある。インターンシップ前準備教育と振り返りを充実させ、目標を達成するための動機づけの強化と企業と学生・学校とのミスマッチを無くすための内容改善を図っていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>インターンシップ前準備実習の内容は十分だと考えるが、社会人としての基礎（挨拶等）も強化してほしい。</li> <li>時期が夏期であることから、熱中症などの健康管理が大切。体調を崩す学生もいるので、対策を検討する必要がある。</li> </ul>

<p>(7) 学生の募集と受け入れ</p> <hr/> <p>○接続する教育機関に対する情報提供の取組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 高等学校や日本語学校等に学校の教育方針や特色、業界が求める人物像、教育内容、就職実績等を正確に伝えている。</li> <li>・ 自動車整備業界の魅力を伝え、生徒や外国人留学生の進路選択に如何に寄与できるかが課題。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 企業は職場環境を改善し、働きやすい環境整備を促進している。このことを、整備士を目指す人たちにきちんと伝え、理解が得られるよう導いてほしい。</li> </ul>
<p>(8) 財務</p> <hr/> <p>○学校の財務基盤体制</p> <p>○予算・収支計画の適正性</p> <p>○会計監査</p> <p>○収支状況の公開体制</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 借入はなく、財務状況は健全である。</li> <li>・ 少子化による財源の確保が厳しくなっており、将来に渡り安定して入学者を確保するための計画・戦略を実施して、財務基盤の安定化を図ることが課題。</li> <li>・ 予算の執行は職務権限規程に基づいて行われ、毎月の予算実績対比表に基づき収支予測を作成して予算管理を行っている。</li> <li>・ 会計監査については、学園監事の審議を経て学園理事会で承認を受けている。</li> <li>・ 収支状況の公開は学校関係者評価開催日以降に公開。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 特に問題はない。</li> </ul>
<p>(9) 法令等の遵守</p> <hr/> <p>○法令に基づく学校運営</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学校運営については、責任者を定め、社会の信頼を得るべく、関係法令・設置基準等を遵守し学校運営にあたっている。</li> <li>・ コンプライアンスマニュアルを設置し、規範意識を高め遵守している。</li> <li>・ コンプライアンス窓口は、学内だけでなく、学外（弁護士事務所等）にも設置し、相談しやすい環境と整えている。</li> <li>・ 教職員に対しては、「法令・規則の遵守」を評価基準に盛り込み評価すると共に、Webサイトによる「コンプライアンスセルフチェック」の実施や研修を行い、現状把握と意識の醸成を図っている</li> <li>・ 学生に対しては、規則や規定等を記載した「学生便覧」を配布し、周知徹底させている。 また、交通安全講習を実施し、自動車整備士としての自覚を促すと共に、法令を遵守するよう指導を行っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 規則を守る、法令を遵守するのは社会の基本。自動車業界においては、飲酒運転には特に厳しい罰則を科している。規範意識を高め、社会に送り出すことは、学校の責務とも言える。</li> </ul>
<p>(10) 社会貢献・地域貢献</p> <hr/> <p>○学生のボランティア活動の奨励・活動支援</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 復興支援等のボランティア活動に取り組みやすくするためにボランティア活動を奨励する制度を設置した。ボランティア活動の意義を学生たちに浸透させ、活動の促進を図っていく。</li> <li>・ 定期的なボランティア活動として、年2回の献血を行っている。</li> <li>・ 九州北部豪雨災害復興支援のボランティア活動を実施した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 参加にかかる費用や食事等の負担の課題はあるが、地元に着した活動を活性化させ、積極的に取り組んでいくことを望む。</li> <li>・ 地域を巻き込んだ学園祭等のイベントを学生主体で運営することにより社会人に必要なコミュニケーションスキルや調整・交渉力が身につくので、今後の取組みに期待する。</li> </ul>
<p>(11) 国際交流</p> <hr/> <p>○留学生の受け入れ・実施状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 少数ではあるが留学生を受け入れ、日本国内での就職斡旋も行い、実績もある。</li> <li>・ 自動車整備士を希望する外国人留学生のために、受入制度、学習環境を整えることが課題。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 外国人留学生の採用については、企業も前向きになっている。コミュニケーション能力が高い人が採用されているので、働く意欲はもちろんのこと、日本文化や日本での働き方を理解させる指導も重点的に取り組んでほしい。</li> </ul>